

Rotary 鈴鹿西ロータリークラブ会報

所属：国際ロータリー第 2630 地区 鈴鹿・亀山グループ；

UNITE

創立：1985 年 3 月 27 日；RI 認証：1985 年 6 月 3 日(No. 1665)；

FOR

事務所：〒513-0802 三重県鈴鹿市飯野寺家町 816 鈴鹿商工会議所 3F；

GOOD

電話：059-383-7077；FAX：059-383-0501；

よいことのために手を取りあおう

E-Mail：info@rotary-suzuka-west.org；https://www.rotary-suzuka-west.org/

例会場：鈴鹿商工会議所 4F 大ホール；例会日：火曜日；例会食事：12:00；例会：12:30-13:30；

2025 年 9 月 30 日(火)第 1807 回例会

例会場：鈴鹿商工会議所 4F 大ホール

開始：12:30 終了：13:30

例会進行：伊藤雅文 副 S A A

点鐘：会長 森 喜代造

ソング：手に手つないで

ソングリーダー：服部高宣 副 S A A



会長挨拶

森 喜代造 会長

みなさん今日は。朝晩めっきり涼しくなり、過ごしやすい季節となりました。

明日からは 10 月に入ります。いよいよ本格的な秋を迎えるところでございます。

皆さまご承知のように、先般 9 月の 12 日、午後 10 時から四日市で記録的な豪雨が発生し、地下の駐車場、楠木パーキングで 274 台の車両が浸水被害に遭いました。地下 2 階の駐車場は高さ 3.5m、天井まで水没した車両は泥をかぶり、駐車スペースからはみ出しており、大変な状態となっていました。また地下 1 階では 1.2m まで水に浸かっております。なぜ、このような災害が発生したかといいますと、4 年前、国交省から「止水板が壊れているので修理しなさい」と指摘があったのにもかかわらず、管理会社は見過ごしていました。止水板は、すべて自動で上げ下げできる最新型の装置でしたが、故

障しているため、機能は全く失われておりました。そうなるとこれは人的災害になり得ると、報道されておりました。

この地下の、排水作業は 9 月 17 日に終了しておりますが、今後における水没車両の補償問題では、まず持ち主の自動車保険任意保険の車両保険で補償を受けることが考えられ、自賠責保険は人身事故の他人への損害を補償するため、車両自体の損害には適用されません。

つまり水没による被害は補償対象にならないということでございます。その上で駐車場の管理者に対して損害賠償を請求できる可能性もあると弁護士は言っておりました。

今後の保証問題は、地下 2 階が天井まで水没しておりますので、車の所有者は裁判に発展する可能性もあります。

昨日から車の搬出がされておりますが、二台分だけがありました。そこで今日から全国のレッカーカー 46 台を投入して空き地に運び出しま

す。私も翌日の9月13日に四日市のプラトンホテルで、子ども食堂ラーニングセミナーに参加しましたが、駅降りた途端、道路は泥だらけで、商店街のあちこちで後片付けに追われていました。状況もわからず何があったんかなと思い、ようやくプラトンホテルにたどり着きました。

そこで今回のセミナーは、9月13日の土曜日にプラトンホテル四日市で 82 名のセミナー参加者があり、子ども食堂支援ラーニングセミナーに参加しました。

初めに桑名市の子ども食堂、太陽の家、桑名子ども食堂の活動状況の説明がありました。

この子ども食堂では、大人が見守る安心できる場所で、みんなでご飯を食べたり、遊んだり宿題をしたり、楽しく過ごしています。また食材や生活用品を配布する、いわゆるパントリーやみんなで勉強したりする、学習支援を行っています。「君を、あなたを一人にしない頼れるつながりを、地域と共に」を「地域の子ども、若者の今と未来と一緒に支えてみませんか」というスローガンの中で運営をしております。

その中で「孤立は居場所や所属先を失った時に起こります。孤立は困難をより深刻にします」私たちは、十代の無料カフェ・子ども食堂・学校内カフェユースセンターなど居場所でつながり、オンライン相談や食と家庭の支援・学びと就労の支援・心の支援など、若者一人ひとりの困難をサポートしています。家庭環境によらず、どの子にも「安心して過ごせる居場所がある」困った時頼れる人がいる。そんな地域と一緒に作ってみてはいかがでしょうか。と言う報告をされておりました。

また、地域のあちこちで夏祭りの提灯が灯り、



太鼓の音や屋台の賑わいに、昔ながらの人と人とのつながりを感じる場面も多いのではないでしょうか。それに歴史や背景は様々でしょうが、今まで沢山の方の協力があって、続いているんですね。太陽の家の活動も今年で十周年、多くの方々に支えられ、ここまで続けてこられました。見守り、育むことで子供たちは健康に育ちます。と言う報告がありました。

続いて、各テーブル 10 名のグループによる、ディスカッションが行われ、各クラブから子ども食堂についての意見がかわされました。

自由討論では、それぞれの意見が出まして、「今の子ども食堂を利用する子供は、貧困家庭ではありません。とか、ご飯を食べない子供が増えており、食堂には栄養士という専門家が必要ではないか」また、「昔みたいに我慢ができない子どもが多く、ひとり親もあり、子ども食堂は必要である」それと「青少年育成には大変いいことである。子ども食堂は楽しくいくべきである」こういった意見交換がありました。

また、「企業の宣伝で子供食堂が運営されているのは、いいことである。黒字になるよう工夫している。肉を使うこだわりがある。子ども食堂は、食べることよりも、子供の相談事や、出会いの場であってほしい」という、意見もありました。

最後に、皆さんから出された意見をまとめ、

発表をさせて頂きました。

今回の子ども食堂セミナーを受けて、各市において子ども食堂は必要であると感じました。

大変、有意義なセミナーでありました。以上でございます。

幹事報告

柴田友美 幹事

1. 鈴鹿・亀山グループ各ロータリークラブ例会変更のお知らせ

鈴鹿RC : 10月29日(水) 特別休会

亀山RC : 10月 6日(月) 会場都合のため
ロータリー事務所

10月13日(月) 法定休日

10月20日(月) 会場都合のためロータリー事務所

10月27日(月) 会場都合のためロータリ一事務所

1. 当クラブ例会変更のお知らせ

* 10月14日(火) 休会

* 10月21日(火) ロータリー財団地区補助金プロジェクト 平田町駅周辺清掃活動

* 10月28日(火) 秋の親睦家族会のため伊賀上野方面

2. 9月17日(水) 鈴鹿・亀山グループガバナー公式訪問合同例会・IMの礼状を頂戴しています。



3. 2025-26 ロータリー米山記念奨学会事業
「豆辞典」を配付してございます。
4. 本日例会終了後、第5回理事・役員会を事務局において開催いたします。

本日の行事

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー ピン贈呈

岩崎 透会員（5回）伊藤義一会員

（3回）藤野恵子会員（1回）

委員会報告

クラブ研修リーダーセミナー（9/21）の報告

服部高宣 クラブラーニングファシリテーター

1. ロータリーの本質：職業奉仕を中心とした人づくり

2. RI（国際ロータリー）の6つの大きな変化

3. RIが変貌した背景：アメリカ社会の変容、組織の宿命、日本との乖離

4. 日本のロータリーと RI の乖離（奉仕観、組織運営、多様性、財団補助金）

5. RIとの向き合い方：理解、再評価、統合

6. ロータリーの未来：理念の実践と自分づくり

7. 職業奉仕の対価：深川純一パストガバナーの人生哲学



RI（国際ロータリー）の組織変化と問題点

講演者は、近年の RI が企業的なトップダウン型の組織に変質し、本来のロータリーの理念から乖離していると指摘。CEO 主導の方針決定、クラブ自主性の低下、会員減少にもかかわらず幹部の報酬増加と分担金の値上げといった問題点を挙げている。

トップダウン型の組織変化：ボランティア主導から CEO 主導の企業的組織へ。

研修制度による統制強化：セミナーの増加は、クラブの自律性を制限し本部方針に従わせる仕組みになっている。

会員増強と資金調達の優先：組織の価値継承を名目に、数字や制度が重視されている。

意思決定機関の形骸化：規定審議会などが本部方針を承認するだけの場になっている。

RI 会長の象徴化：会長の個性が失われ、本部の方針を伝える存在になっている。

ビジネス化（Business RI）：奉仕と親睦の場から、ビジネス的視点での運営に抵抗感がある。

ジョン・ヒューゴ CEO が在任した 14 年間で会員数は減少し続けているにもかかわらず、報酬は毎年増加している。2023 年度の報酬は 1 億円を超えていている。

これはライオンズクラブの事務総長の報酬（約 4000 万円）と比較して倍以上高い。

会員減少による財政的ひっ迫を、会員への人頭分担金の値上げで補っている現状がある。

ロータリーの人頭分担金は現在 82 ドルだが、2028 年度には 93 ドル（約 1 万 4 千円）に値上げされることが決定した。

これはライオンズクラブの国際会費 50 ドルと



比較して、将来的に倍になる可能性がある。

会員減少と財政ひっ迫の中で、本部報酬は上昇し、その不足分を会員の負担増で補う方針に講演者は納得できないとしている。

2025 年 4 月の規定審議会で、日本から提案された 26 件の制定案のうち採択されたのは 2 件のみであった。

これに対し、RI 理事会からの提案は 100% 採択されており、意思決定機関が RI 本部の方針を形式的に承認する場になっていることを示している。

日本のロータリーと RI の乖離

日本のロータリーが重視する独自の価値観（職業奉仕、人格陶冶など）と、RI が推進する国際的な方針（数字目標、戦略的拡大、DEI 推進など）との間に大きな乖離が生じている。

奉仕觀の違い：日本は「道徳的奉仕」を重視するが、RI は具体的な成果やインパクトを目指す「戦略的奉仕」へ移行。

組織運営のギャップ：日本のクラブは伝統や慣習を重視するが、RI は数字や成果に基づく戦略的な運営を行う。

若年層・多様性への対応：RI は DEI（多様性、公平性、インクルージョン）を明確に掲げるが、日本のクラブは高齢化が進み、入会のハードル

も高い。

財団補助金制度への理解の差：世界のクラブは補助金を積極的に活用するが、日本では制度が複雑で面倒だと感じられ、十分に活用されていない。この乖離の根底には、日本が「ロータリーは紳士の会、人格修養の場」という精神文化のもとで独自に進化してきた背景がある。一方、RIは21世紀以降、NGO的要素を強め、社会的インパクトや成果主義を重視する国際的な奉仕組織へと明確に舵を切ったため、それが生まれている。ロータリーの本質を「職業奉仕を中心とした人づくり（=自分づくり）」と定義し、理念なき組織拡大に警鐘を鳴らす。未来に向けて、RIの変化を理解しつつ、日本のロータリーの良さを再評価し、両者を統合する道を模索すべきだと提言している。ロータリーの本質は、単なるボランティアではなく、職業を通じて社会貢献し人格を磨く「人づくり」にある。会員数ではなく、ロータリーの理念をどれだけ実践できているかが重要。

伝統を大切にしつつ、新しい挑戦を続ける姿勢が未来の魅力を創る。

人づくりとは、最終的には「自分づくり」である。ロータリーは人生哲学の実践の場。

RIの変化を否定するのではなく、理解する努力が必要。

日本のクラブの良さや強み（信頼、思いやり、職業奉仕の伝統）を再評価する。

戦略的思考（RIの方針）と精神的価値（日本の伝統）の統合を模索する。

出席報告

江藤隆仁 出席委員長

正会員 25名中 13名出席 出席率 61.90%

ニコニコボックス報告

藤野恵子 親睦・家族委員長

敬称略・順不同

※多額

※森喜代造：本日は江藤会員の卓話よろしくお願いします。

柴田友美：気管支炎はようやく完治しましたが、まだ、声を出すと咳が出ますので例会中はマスク着用しますのでよろしくお願ひいたします。ちなみに秋のイネ科のアレルギーもあります。季節の変わり目です。皆様もご自愛ください。

野間芳実：江藤さんの卓話楽しみにしています。

本日のプログラム

【米山月間（10月）にちなんで】

江藤隆仁 米山記念奨学会委員長



会報発行担当：田中 通